



(図書館外観)

久米南町図書館

新館紹介



No. 86

岡山県のほぼ中央に位置し川柳の里として知られている久米南町に、平成十三年五月十六日に誕生した久米南町文化センターはホールと図書館の機能を備えた総合文化施設です。開架面積約九百五十九㎡、開架・閉架合わせて十萬冊の蔵書収容能力があります。図書館は外からでも雰囲気や伝わるように全面ガラス張りとなっており、明るい館内がうかがえます。内装はほぼ桜材で統一し、書架は平湯モデルを採用しています。木の優しさを生かした低く、角のない書架は子どもから大人まで楽しくゆったりと利用していただくことができます。湾曲の書架や、まっすぐに配列されていない書架は遊び心たつぷりで、図書館を探検してみようという気にさせてくれます。またバリアフリーのワンフロアなのでベビーカーを押してご来館される方もたくさんいらつしゃいますし、車椅子の方でもスムーズに書架を行き来できます。館内の配色はほとんど

暖色でまとめられており、暖かい明るいイメージを与えてくれます。所々に置かれた観葉植物は、利用者の方にやすらぎを感じていただけるよう配慮したものです。

カウンター横のスペースは「郷土コーナー」となっています。浄土宗の開祖、法然上人をはじめとして、片山潜などの郷土の偉人や文化財に関する資料を収集、所蔵しています。利用度の高い久米郡誌や弓削町史といった貴重書の貸出しも御寄贈を受け、複本が揃っているため可能となっています。その他、県内の資料も多数収集しています

川柳の町でもある久米南町にちな



(川柳コーナー)

み、「川柳コーナー」を設けています。ここには川柳に関する多くの資料を取り揃え、たくさんの方がユーモアと文化センスを磨かれています。館内でもっとも活気のあるコーナーに「幼児コーナー」があります。

湾曲書架にフエイスマウトされて並んだ絵本は、背だけを見せた絵本よりもアビール力が強く、非常によく利用されます。幼児が絵本や紙芝居を見るための柔らかいじゅうたんのコーナーもあり、明るく伸び伸びとしたスペースになっています。お母さん方が安心して、小さいお子さんとくつろげる場所です。こちらのコーナーでは、毎週木曜日に「読み聞かせの会」を行っており、絵本や紙芝居、簡単な工作などを行っています。最近では町外の方も参加され、お母さん方の輪も広がっています。

かわいらしいピンクを基調としたティーンズルームは十代の若者を対象にした部屋です。図書館の近くに、小中学校、高校がありますので、学校帰りの児童、生徒さんがたくさん利用していただけます。ここには、就職や学校に関する本のほか、ファッションに関する本や最近のアーティストの本などをとり揃えており、にぎわいのあるスペースとなっています。二階配の方もゆつくりくつろげる畳コーナーでは、暮を楽しんでおら

れる姿や、お子さまと一緒に本を読まれている姿をみかけます。様々な世代の交流の場となっています。

現在人気のコーナーとして「パソコンコーナー」や「AVコーナー」があります。三台設置されているパソコンを使って、インターネットを無料で体験することが出来ます。他に検索用のパソコンも一台あり、簡単な操作で探したい本を検索出来ます。またAVコーナーでは、様々なジャンルのビデオ・CD・DVDをとり揃えています。貸し出しのほか館内でも視聴できるブースを備えていますので、幅広い層の方々に活用していただいています。防音対策を施した観賞室ではビデオやDVDの上映会ができ、映画館にいるような迫力のある音を味わっていただくことができます、喜ばれています。

その他、イベントとして毎月第四土曜日に観賞室において、『お話し会』を開催しています。パネルシアターやエプロンシアター、人形劇など、ボランティアの方々の協力も得ながら、皆さんにご覧いただいています。月一回のイベントですが、毎回たくさんの方々が見に来られ、その反響に驚いています。これから、皆さんに喜んでいただけるような楽しい企画を考えていきたいと思っています。

利用案内

所在地 久米郡久米南町下弓削五一

電話 〇八六七 二八 四三三二

FAX 〇八六七 二八 四三三三

休館日 毎週火曜日(祝日にあたる日はその翌日)

日はその翌日)

年末年始

館内整理日(土日をのぞく月末一日)

館内特別整理期間

(年間五日間)



(幼児コーナー)

公立図書館の広域サービスの取り組み

総社圏域図書館(室)の相互利用を始めて

坂本 満理枝

総社圏域の一市一町二村(総社市、真備町、山手村、清音村)では、平成十二年七月から、総社圏域住民であれば、総社圏域内の図書館(室)を相互に利用できるようになった。

総社圏域では、これまでも行政分野において、し尿・ごみの共同処理、中学校の管理運営や消防・救急業務など広域事業を実施してきた。

そこで、さらなる広域行政の推進を図るため、平成十年七月に新たに総社圏域広域行政推進協議会を発足。

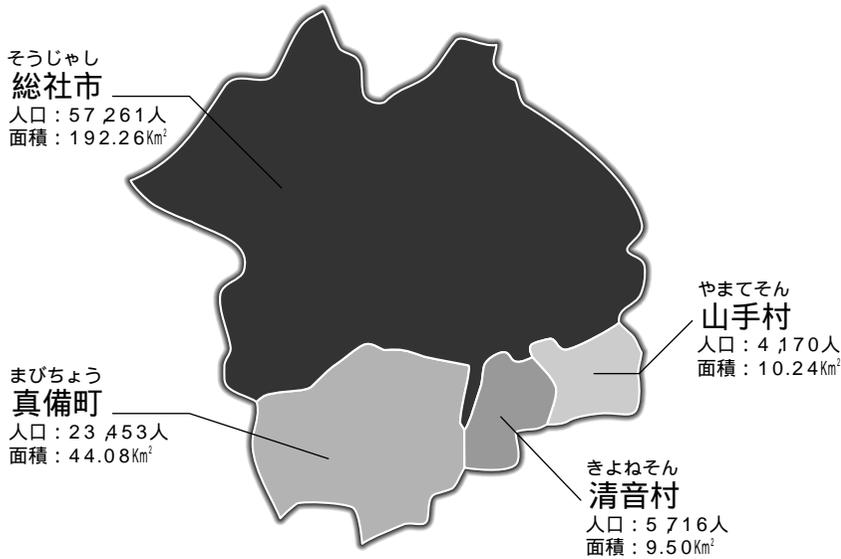
この協議会では、公共施設の相互利用を研究テーマとして調査・研究を進めてきた。そして、具体的な事例として、図書館(室)の相互利用を進めるための調査・研究を行うことになり、平成十年十二月に、各市町村の教育委員会及び図書館担当職員を中心とした研究会を設置し、約

一年かけて研究を行った。まず、最初にそれぞれの市町村の図書館(室)の現状を調査し、相互利用に向けてどのような問題点があるかを検討。

真備町には、平成十二年七月に新館が開館する計画があり、この時点で、総社市立図書館と相互利用を行うことは問題ないが、山手村には、図書室はあるが、清音村については図書室の整備も不十分である現状を踏まえて、次の問題が考えられた。

総社市及び真備町立図書館を利用することが本当に住民にとって良いことなのか、図書館が身近にあることが大切なことではないか。

図書を他市町村に貸し出すことについて、総社市及び真備町の住民のコンセンサスが得られるかどうか。総社市及び真備町の図書館の利



〔総社圏域図〕 総社圏域ガイドマップより

用が増えることによる、購入図書
増加及び職員の業務増における費用
負担をどうするのか。
これらの問題点について、協議会と
しては、総社市において既に在勤在

学者に対しては館外利用を認めてい
ることから、利用者の範囲を拡大し
ても、新規に登録し、利用する圏域
住民の数はさほど多くならないとい
う考えで、相互利用を進める方向で
研究が進められた。

次に、相互利用
を行う場合、どの
ような方法で行う
のが良いのかが問
題となった。

① それぞれの図
書館をオンライン
で結び、利用券に
ついては、共通券
とし、何処で借り
ても、何処で返却
しても良い方法。

② それぞれ利用
したい図書館で利
用券を作成し、借
りた資料について
は借りた図書館に
返却もする方法。

① については、
圏域住民にとつて
便利で良いことで
はあるが、経費的
に負担が多くなる
ことが考えられる。

又、資料の検索に
ついては、現在県

立図書館が進めている、分散型総合
目録検索システムに、それぞれの図
書館(室)が所蔵している図書デー
タを提供することで、圏域内の図書
館(室)が所蔵している資料検索が
可能となることから、②の方法で行
うこととした。

年間七回の研究会と、先進地の視
察などを行い、最終的に協議会とし
て圏域の相互利用を進めることが望
ましいという報告書を作成した。

この協議会が進行している時点で、
真備町立図書館は、新館開館と同時
に圏域利用を開始する方向を打ち出
した。

これらのことから、総社市も、真
備町立図書館が開館する平成十二年
七月から、総社圏域に居住する者に
ついて、館外貸出を受けることがで
きるよう、『総社市立図書館運営規
則』の改正を行った。

山手村についても、総社市と同時
期に圏域利用が行えるようになった。
清音村については、今後図書室の整
備を行う予定である。

また、総社圏域(広域)行政推進協議
会は連絡会としてそのまま継続させ
今後においてもより相互利用が円滑
に行なわれるよう、連絡を密にし協
力したいと考えている。

以上のことが、圏域利用を始める
までの経緯である。圏域利用を開始

して一年が経過した現在、圏域利用
を始めることについて、心配されて
いた問題点については、大きな問題
もなく過ごしてきた。

そのことより、今まで図書館を利用
しなくても出来なかった住民が、
図書館を利用することができるよう
になったこと、又圏域内の図書館
(室)の資料が利用できることから
より多くの資料が利用できるよつに
なったことの方が大きな収穫であつ
たと感じている。

総社市では、平成十三年十月から、
県立図書館が進めている分散型総合
目録検索システムに参加していく計
画を進めている。このことにより圏
域住民は、総社市立図書館が所蔵し
ている資料の検索が可能となる。

そこで、今後においては、圏域内
の図書館資料の物流システムを確立
していくことが今後の課題であるよ
うに思う。

図書館の相互利用は、全国的にも
広がってきているが、図書館のない
町村がまだまだ多くある。容易に相
互利用で、その問題を片づけてしま
うことは出来ないかもしれないが、
図書館を利用した住民の声が反映さ
れて、身近に図書館ができる可能性
もあるのではないだろうか。

(さかもと まりえ:総社市立図書館)

ウチの

れぶあれんす

第4回 大学図書館では...

就実女子大学・就実短期大学図書館の巻

利用者の求める資料を世界中から探して

- 大正期の文芸雑誌を探す -

黒瀬 知子

大学図書館という特質もあってか、レファレンスカウンターに寄せられる質問の中で多いのは、「欲しい資料がどこにあるのかわからない」というものです。

利用者に、資料の内容や出典についてインタビュしながら、自館に有るもの、無いもの、近くの図書館に有るもの、無いものと振り分け、資料の探し方や取り寄せ方を説明していきます。現在では、自館の資料もパソコンを使って調べるようになってきているので、パソコンの使い方やキーワードの選び方も説明します。

所蔵していない資料については、インターネットでの蔵書検索や、総合目録データベースを利用することによって、短時間で簡単に探せるようになりまし。電子媒体を使うことにより便利にはなりましたが、機械に頼りすぎてはいけないという一例を、今回は紹介したいと思いま

雑誌名 『創作』
巻号 不明
刊行年月 大正二年一月
記事名 歌壇の近勢
「競詠二十四家集」

まず、雑誌『創作』を所蔵している図書館を webcat で探します。

十七の館で、所蔵していることが判明。しかし、大正二年一月を所蔵していると思われるところは、ごくわずか。雑誌の所蔵データは必ず巻号で表示されているので、巻号が不明の場合は、所蔵データだけでは所蔵の確認ができません。そこで、該当年代を所蔵している館へ所蔵調査を行いました。

ところが、回答はことごとく所蔵無し。どうしてだろう？ 出典資料を再確認しましたが、転記ミスや新しい情報をみつける事はできませんでした。

次は、できるだけ巻号が特定できるように、『県立神奈川近代文学館所蔵新聞・雑誌目録』を検索しました。この目録は一号一号に刊行年月が表記されているので、巻号が特定できないときに便利です。ここで、新発見。『創作』は、明治四十四年十月に一度終刊し、第二期は大正二年八月に創刊されていたのです。つまり、大正二年一月に発行された号は無いのです。すると、間違っているのは、刊行年月か、雑誌名そのものか。出典資料が雑誌名まで間違えることは少ないので、雑誌名は信じて、所蔵調査を再開しました。そして、やっと『創作』の三巻三号大正二年十月刊に、該当の記事があることが、判りました。

資料を見つけることができ、ほつとしながらも、最初に県立神奈川近代文学館の目録を調べればよかつた、と反省もしました。大正期や昭和前期の資料を探す時は、常に緊張します。資料そのものが、戦災で焼けていたり、出典資料に間違いがあったりで、見つかるまでに時間がかかる事もよくあるからです。

インターネットを使うことにより、資料の探し方も様変わりしてきましたが、資料によっては今回のように、冊子体の目録と人の手によって、探す事が必要な場合も、まだまだあります。

機械は便利ですが、一覧性が無いので、頼りすぎてはいけないと感じた例でした。

利用者の求める資料はさまざまです。見つけるための方法も、幾通りもあります。どの方法が適切か、どういった雑誌が有効か、便利なサイトは何かを、常に研究しておく必要があることを痛感させられる日々です。

【注】

webcat : 約千六百の大学図書館等で所蔵する資料の総合目録データベースを、ウェブ上で検索できるサイト

http://webcat.ncu.ac.jp/

(くろせ とも) :

就実女子大学・就実短期大学図書館

最近思ふこと

仲達 敏江

「朝の十分間読書」という言葉をよく目にします。これは、八八年に当時千葉県の舟橋学園女子高校の林弘先生によって提唱されたものです。その理念は、「みんなでもやる」「毎日やる」「好きな本でよい」「ただ読むだけ」の四つだったそうです。その効果については、色々といわれていますが、その中に、「心が落ち着き安らぎを覚える」ことが挙げられています。今は、誰もが自由に情報を得ることが出来、情報を発信できる環境にあります。インターネットは、情報の無法地帯とも言われています。そこにはそれを扱うヒトに、更なるヒトとしてのモラル・教養が必要ではないでしょうか。現代のように人と人との繋がりが希薄になり、心はいつも満たされず、安らぎを覚えることの少ない今日、この「十分間読書」は、まさに「心の教育」だと思えます。便利さだけを追い求めるのではなく、時代の大きな流れの中でイキイキと生きていくためにも図書館はますます必要とされてくるのではないのでしょうか。

(なかたぢ としえ岡山県立大学附属図書館)

会員の声 2

開館後一年が経ち...

坂口 佳子

七月十三日(不吉な十三日の金曜日)、当館は開館一周年を迎えました。記念式典やら夏休みやらで慌ただしかったあの日から一年が過ぎたなんて嘘のようです。開館当初は、子ども達のパワーに圧倒され、インターネット用の開放端末が何度も故障し、次々起こる問題に振り回されっぱなしでしたが、やはり、レファレンスに一番戸惑ったのを憶えています。年代が少し以前になると資料が揃わない、レファレンスツールの種類が乏しい、学校での調べ学習に対応できる資料が少ない等々。近隣の図書館や県の巡回協力車がなければ対処できなかったものも多々あります。また、新しく団体貸出やお話の会を始めた時も、各館の事例を紹介して頂いたりと、図書館間の協力は相互貸借だけに留まらないことを改めて実感しました。あれから、変わらず皆さんの方が利用してくださっています。町内全体を見渡してみると図書館の存在自体なかなか浸透していないように感じます。もっと積極的に「ピリアル」していきたい。もちろん中味(館内)の充実も。一年経っても、まだまだこれからのうちの図書館です。

(さかくちけいこ 真備町立図書館)

会員の声 3

日々思ふこと

中畑 友希

今年度より、芳泉高校に勤務しています。芳泉高校は創立一十七年目の比較的新しい学校です。千二百人ほどの生徒たちは、のびのびと勉強や部活動に打ち込んでいるようです。図書室は、高等学校としては珍しく、一階にあります。場所が良く、一階にもあり、昼休みと放課後はたくさん生徒でにぎわっています。コンピュータと雑誌の利用が多く、図書の貸出冊数はやや伸び悩んでいます。やはり、生徒たちはとても忙しいようです。せうかくの青春時代に、じっくりと本を読む時間を作りにくいというのは残念なことだなあと感じます。図書館行事としては、年に二回ずつ読書会と小講演会が行われます。一学期の読書会は、あかね色の空を見たよ」をテキストに、様々な意見が出され、実り多い会となりました。このような図書館行事を通じて、一人でも多くの生徒が本に興味を持つてくれれば、と思います。

(なかたはた ゆき 県立芳泉高等学校)

会員消息

入会個人

- 渡辺 光右 (県総合文化センター)
 - 近藤佐和子 (県総合文化センター)
 - 竹内 梨恵 (県総合文化センター)
 - 藤森 美枝 (岡山市立中央図書館)
 - 川田 博子 (岡山市立幸町図書館)
 - 池上 麻美 (岡山市立幸町図書館)
 - 杉田 健 (岡山市立幸町図書館)
 - 清水 厚子 (津山市立図書館)
 - 黒坂 稔 (玉野市立図書館)
 - 前田 桂子 (玉野市立図書館)
 - 山田 綾子 (玉野市立図書館)
 - 藤井 憲 (笠岡市立図書館)
 - 陶山 正志 (総社市立図書館)
 - 川上 知代 (船穂町立図書館)
 - 連佛 はる (奈義町立図書館)
 - 歌崎 明子 (ノートルダム清心女子大学附属図書館)
 - 佐藤 子 (中国短期大学図書館)
 - 藤原 尚子 (岡山短期大学図書館)
 - 三輪田純子 (岡山短期大学図書館)
 - 藤井喜代秀 (金光図書館)
 - 八木 一成 (蓮昌寺仏教図書館)
 - 野崎千代子 (蓮昌寺仏教図書館)
 - 神宝 智子 (蓮昌寺仏教図書館)
 - 元岡 廣志 (蓮昌寺仏教図書館)
 - 竹内 恵 (蓮昌寺仏教図書館)
 - 三宅 康栄 (熊山町中央公民館)
- 入会施設
久米南町図書館

退会個人

- 土井 三昭 (県総合文化センター)
- 渡辺 暁子 (県総合文化センター)
- 赤島 祐枝 (岡山市立中央図書館)
- 大澤 文 (岡山市立幸町図書館)
- 石井 一江 (津山市立図書館)
- 近藤 紀男 (玉野市立図書館)
- 三谷 洋子 (玉野市立図書館)
- 植盛 孝 (玉野市立図書館)
- 中田 康生 (笠岡市立図書館)
- 岡田 和正 (井原市立図書館)
- 荒木 弘之 (総社市立図書館)
- 杉本 靖子 (建部町立図書館)
- 西牧 啓作 (鴨方町立図書館)
- 岡 瑞穂 (奈義町立図書館)
- 八重樫直比古 (ノートルダム清心女子大学附属図書館)
- 田辺 敬子 (岡山商科大学図書館)
- 横田 雅恵 (岡山商科大学図書館)
- 橋本 真記 (岡山商科大学図書館)
- 鋤持 香織 (岡山商科大学図書館)
- 恩田 彩 (就実女子大学図書館)
- 藤原 明美 (中国短期大学図書館)

浅沼 俊則 (岡山短期大学図書館)

- 田中 浩志 (金光図書館)
- 山田 愛 (金光図書館)
- 山内 一則 (就実女子大学)
- 清水 美帆
- 小林 久枝
- 中浜千枝美
- 松永 純子
- 退会施設
- 岡山県総務部総務学事課県政情報室
- 有地文庫
- 久米南町公民館
- 津山基督教図書館
- 岡山県産業振興財団情報支援事業本部

会員現況(平成十三年七月現在)

個人会員...三百十四名

施設会員...七十一館
 ランク別内訳
 A...十九館 B...二十一館
 C...二十九館 C...二館

お知らせ

創立50周年記念事業開始!
 創立50周年記念事業について、
 総会(平成13年6月11日開催)
 で承認されました。

創立50周年記念式・平成13年

度岡山県読書大会

日時:平成13年10月31日(水)

10:00~15:30

会場:県総合文化センターホール

・特別功労者表彰

・記念講演 竹内 愨氏

(日図協理事長)

・実践発表 仁平米子氏

(倉敷朗読研究会)

・特別講演 岩井志麻子氏

(作家)

刊行事業

①『岡山県図書館便覧』

②『岡山県図書館協会50周年記念誌』

ホームページの開設

企画委員会が編集を担当。テ

スト版を開設中。

http://isweb30.infoseek.co.jp/

school/okakento/

訃報

山内 一則氏(就実女子大学教授
 ・元県総合文化センター館長)
 平成十三年六月八日逝去
 享年五十九歳
 謹んで御冥福をお祈りいたします。

平成十三・十四年度役員

会長

広江 寿彦(県総合文化センター)

副会長

萩原 芳身(岡山市立中央図書館)

長代 英雄(里庄町立図書館)

松村 智弘(岡山大学附属図書館)

石井 鎌二(川崎医療短期大学
図書館)

理事

渡辺 光右(県総合文化センター)

武内 時雄(倉敷市立中央図書館)

有元 正雄(津山市立図書館)

陶山 正志(総社市立図書館)

福意 昭教(新見市立図書館)

渡部 秀人(早島町立図書館)

今石 一恵(勝北町立図書館)

高橋行地郎(金光図書館)

入江 浩一(岡山理科大学図書館)

桑原 一良(新見公立短期大学
図書館)

安井 昭夫(山陽技術振興会)

黒崎 義博(日図協評議委員)

監事

秋田征矢雄(日図協評議委員)
 矢納 郁子(岡山県青年図書館員
研修会)
 黒坂 稔(玉野市立図書館)
 岡崎 實雲(山陽町立図書館)

平成十三年年度企画委員会

昨年度委嘱した委員のうち、三名
 が人事異動により交代しました。
 田辺敬子委員 相澤泰憲委員

(岡山商科大学図書館)

岡本信二郎委員 稲葉三千代委員

隈元恒委員 原弘江委員

(県総合文化センター)

事務局から

十月の全国移動図書館・協力事業
 研究会と協会創立五十周年記念式
 に向けて、着々と準備が整ってきま
 した。これからも皆様の御協力よろ
 しくお願いいたします。

平成十三年八月三十日

〒七〇〇・〇八一四

岡山市天神町八・五四

岡山県総合文化センター内

岡山県図書館協会

会長 広 江 寿 彦

☎(〇八六)二二四・一二八六

(内二四五)